

## 神奈川県金融経済概況（2015年2月）

### I. 概況

神奈川県の景気は、基調的には緩やかに回復しており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響も全体として和らいでいる。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もとでは下げ止まっている。輸出は持ち直しつつある。設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、全体としては改善傾向にある。個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響は和らいでおり、基調的には底堅く推移している。この間、住宅投資は駆け込み需要の反動減が続いてきたが、足もとでは改善している。公共投資は基調的には堅調に推移しており、足もとでは増加している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

### II. 実体経済

(1) 生産： 足もとでは下げ止まっている。

- ・ 輸送機械は、国内向け乗用車が弱めの動きとなっているものの、輸出向け乗用車やトラックの好調などもあって、足もとでは下げ止まっている。
- ・ 素材関連は、在庫調整などの影響から、一部の自動車向け素材が減少しているものの、化粧品などが持ち直しており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、情報通信機械を中心とした在庫調整の動きや電子部品・デバイスにおける生産移管等の影響から弱めの動きとなっている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置など一部には弱い動きがみられる一方、円安などの効果もあって、堅調な工作機械に加え、金型なども増加傾向にあり、全体としては持ち直しつつある。

(2) 輸出： 持ち直しつつある。

- ・ 引き続き一部の新興国に弱めの動きがみられているものの、北米向けや中東向けが増加しており、全体として持ち直しつつある。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 14/12月短観における、14年度の設備投資計画をみると、一部では投資を減額・先送りする先もみられるものの、製造業では維持・更新投資に加え、需要増加を受けた増投資の積み増しが計画されているほか、非製造業では新拠点・新店舗の設置などが計画されており、引き続き増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体としては改善傾向にある。

- ・ 14/12月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.06倍と、前月（1.05倍）の水準を上回った一方、14/11月の現金給与総額は前年比▲0.9%となった。

(5) 個人消費： 消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響は和らいでおり、基調的には底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、駆け込み需要の反動から持ち直した後、足もとでは高額品の販売が堅調な一方で、セール衣料品が振るわず、減少している。
- ・ スーパー売上高は、駆け込み需要の反動から持ち直した後、一進一退の動きとなっている。
- ・ 家電販売額は、駆け込み需要の反動から幾分持ち直した後、横ばい圏内で推移している。
- ・ 新車登録台数は、新型車投入効果などから、持ち直している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、県内ホテル・旅館の稼働状況を見ると、高水準で推移している。

(6) 住宅投資： 駆け込み需要の反動減が続いてきたが、足もとでは改善している。

- ・ 14/12月の住宅着工戸数は、前年の駆け込み需要の影響により前年割れとなっているが、相続税対策の特需により貸家が好調であることから、一昨年前の水準を上回っている。

(7) 公共投資： 基調的には堅調に推移しており、足もとでは増加している。

- ・ 14/12月の公共工事請負額は、前年を上回った。

### Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、不動産・住宅関連向けの伸びが続いているほか、中小企業向け貸出に動意がみられており、引き続き増加している（貸出金末残前年比： 14/11月+0.8%→12月+1.0%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利前月差： 14/11月▲0.010%→12月▲0.015%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金が順調に増加していることなどから、引き続き増加している（実質預金末残前年比： 14/11月+3.0%→12月+2.8%）。

以 上

---

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。